

青森県立郷土館だより

Aomori Prefectural Museum

通巻148号 平成22年(2010)9月1日 Vol.41 No.1

平成22年度 8月～行事記録・予定

文化庁巡回展 「発掘された日本列島 2010」
会期 8月3日(火)～9月5日(日)

- 1 解説員展示解説
 - ・日時：開催期間中、毎週日曜日に開催。午後1時から
- 2 文化庁調査官による展示解説
 - ・日時 8月7日(土曜日) 午後2時から 約1時間
 - 8月8日(日曜日) 午前10時から 約1時間
 - ・講師：文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門
文化財調査官 林 正憲 氏
- 3 スケッチコンテスト 展示物をスケッチ。
 - ・期間：8月3日(火)～8月8日(日) 対象：小学生
- 4 記念フォーラム『邪馬台国がやってきた』
 - ・日時及び場所 8月28日(土) 13:00～16:15
青森県総合社会教育センター 大研修室



北東北3県共同展 「境界に生きた人々」

会期 9月17日(金)～10月24日(日)

古墳時代以降、北東北の人々は、中央の文化と北方の文化の境界に生きて来ました。北東北の人々の歴史の文化について、遺跡の出土品を中心に仏像や絵巻など多彩な資料を交えて時代ごとに紹介。極楽寺の「銅龍頭」(重要文化財)などを含む約1000点の三県選りすぐりの考古遺物を展示します。

- ・開館時間 午前9時から午後6時
- ・休館日 会期中は全て開館
- ・特別展料金 中学生以下は無料 ()内は20人以上の団体の料金
当日券 一般500円(400円) 大学・高校生240円(200円)
前売券 一般400円(320円) 大学・高校生200円(160円)



- 1 解説員展示解説
 - ・日時：9月19日(日)9月26日(日)10月3日(日)
午後2時～午後3時
- 2 記念講演「考古学からみた北奥の内国化」
 - ・講師：弘前大学人文部教授 関根 達人
 - ・日時 9月25日(土曜日) 午後1時30分から午後3時
 - ・場所 青森市福祉増進センター(旧公会堂)



- 「生誕250年 北斎富士を描く」 会期 10月30日(土)～12月5日(日)
- 「青森のわざ ～伝統工芸～」 会期 12月11日(土)～平成23年2月20日(日)
- 「新収蔵2010」 会期 2月26日(土)～3月21日(月)

利用案内

開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後6時(5月～10月)ただし11月1日～4月30日は午後5時まで。

休館日(平成22年度)

【年末年始】12月29日～1月3日

【館内整理日】9月6日・9月15日・9月16日・10月25日・10月29日・12月6日・12月10日

・1月31日・2月21日・2月25日・3月22日

常設展観覧料

中学生以下は無料

()内は20人以上の団体の料金

【通常期間】(3月～12月) 一般310円(250円) 大学・高校生150円(120円)

【特定期間】(1月・2月) 一般250円(200円) 大学・高校生120円(100円)

青森県立郷土館だより Vol.41 No.1 通巻148号 2010.9.1

【編集・発行】青森県立郷土館 〒030-0802 青森市本町二丁目8-14

【TEL】017(777)1585(代) 【Fax】017(777)1588

【電子メール】E-KYODOKAN@pref.aomori.lg.jp

【ホームページ】http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html



文化庁巡回展
「発掘された日本列島2010」

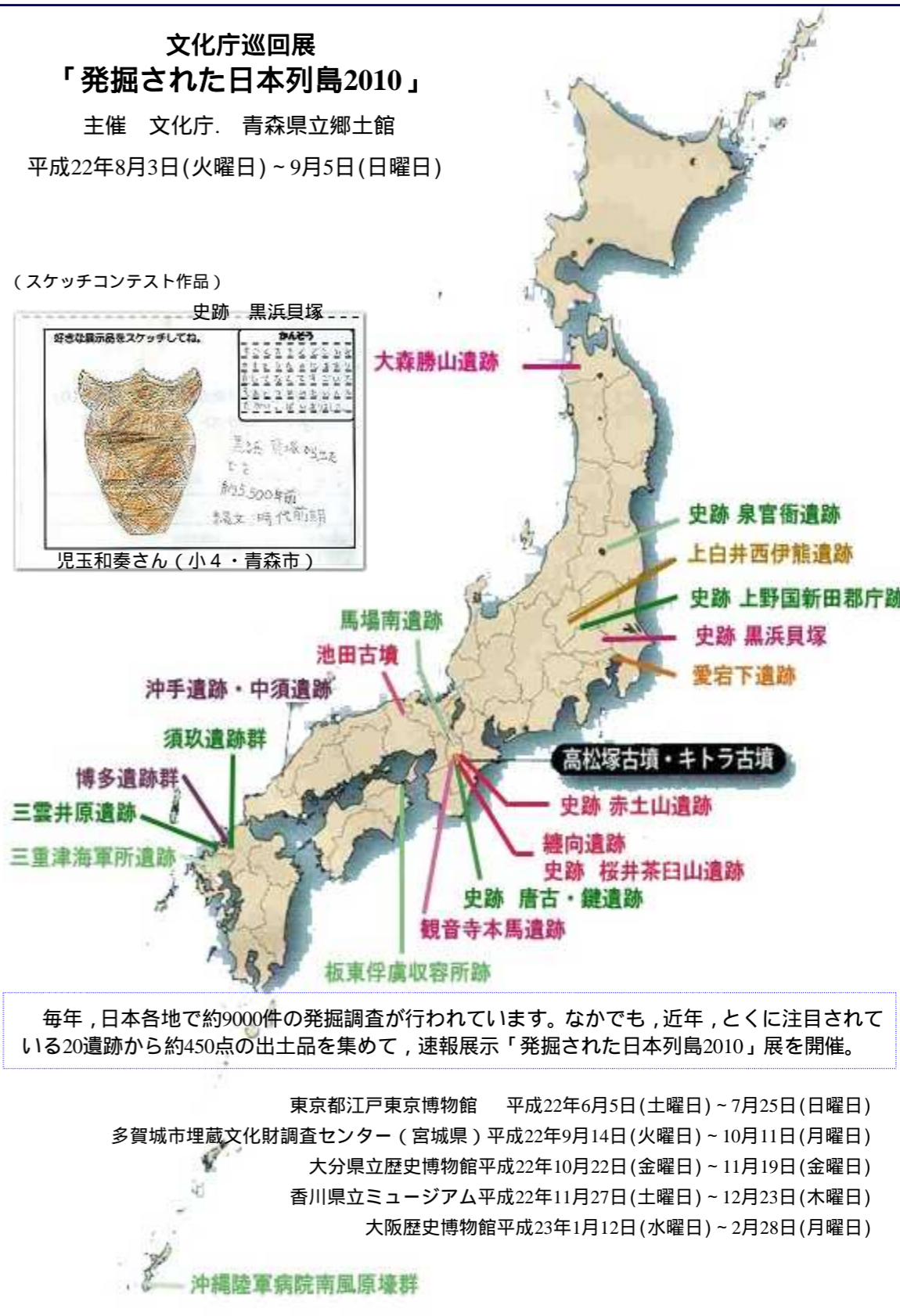
主催 文化庁、青森県立郷土館

平成22年8月3日(火曜日)～9月5日(日曜日)

(スケッチコンテスト作品)



児玉和奏さん(小4・青森市)



毎年、日本各地で約9000件の発掘調査が行われています。なかでも、近年、とくに注目されている20遺跡から約450点の出土品を集めて、速報展示「発掘された日本列島2010」展を開催。

- 東京都江戸東京博物館 平成22年6月5日(土曜日)～7月25日(日曜日)
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター(宮城県)平成22年9月14日(火曜日)～10月11日(月曜日)
- 大分県立歴史博物館平成22年10月22日(金曜日)～11月19日(金曜日)
- 香川県立ミュージアム平成22年11月27日(土曜日)～12月23日(木曜日)
- 大阪歴史博物館平成23年1月12日(水曜日)～2月28日(月曜日)

沖縄陸軍病院南風原壕群

『青森県立郷土館研究紀要』
第34号(平成22年3月19日発行)

- | | |
|--|--|
| 01 「青森県立郷土館所蔵の Fortipecten 属化石」
島口 天 | 10 「弘前市熊嶋・熊野宮の鬚額について」
成田 敏 |
| 02 「青森県南部の蛾類」
山内 智 | 11 「青森県南部地方巫女習俗調査報告
「きょうもん(経文)」」
北川達男 |
| 03 「下山健作先生寄贈のコメツキムシ類の標本」
大平仁夫・山内 智 | 12 「磯漁の名称ナギマミ(凧間見)・ナガミに
ついて」
昆 政明 |
| 04 「植物学者郡場寛博士の履歴(2) 昭南博物館」
山内 智 | 13 「あおり街かど探偵団 報告書」
安田 道 |
| 05 「弘前市中村川支流の孫産童子沢に分布する
黒曜石の化学組成」
齋藤 岳・島口 天・長井雅史
・金成太郎・杉原重夫 | 14 「前田昭雲について」
對馬恵美子 |
| 06 「青森県佐井村根森八幡宮の玉類・石器に
ついて」
- 放浪の画家、蓑虫山人により
明治期に描かれた玉ほか -
齋藤 岳 | 15 「淡谷のり子展と生家淡谷家資料」
太田原慶子 |
| 07 「下北半島むつ市川代の尖頭器について」
島口 天・齋藤 岳・柴 正敏 | 16 「青森市内における暮らしの変遷」
～ 食生活を中心に～
工藤睦美 |
| 08 「青森県八戸市松石橋遺跡・田代遺跡出土の
水晶原石について」
齋藤 岳 | 17 「青森県立郷土館の小・中学校を対象とした
移動博物館について(2)」
佐藤 琢 |
| 09 「引札の配札圏からみた岩木山信仰について」
小山隆秀 | 18 「青森県立郷土館の広報活動」
相馬信吉 |
| | 19 「八戸藩「四品御昇進一件」(1)」
本田 伸・竹村俊哉 |

研究紀要掲載ウェブサイト

青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 >
『青森県立郷土館へようこそ!』「出版物案内」
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html>

青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 > 青森県立郷土館へようこそ! > 『郷土館の出版物』
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/shuppan.html>
「青森県立郷土館研究紀要 第34号(平成22年3月19日発行)」

青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 > 「青森県立郷土館へようこそ!」> 郷土館の出版物>
『青森県立郷土館研究紀要 第34号(平成22年3月19日発行)』
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kennkyu-kiyou002.html>
「目次」分岐 PDF版各論文

青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 > 「青森県立郷土館へようこそ!」> 郷土館の出版物 >
『青森県立郷土館調査研究年報』1～32号の目次を紹介
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/nenpo.html>

青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 > 「青森県立郷土館へようこそ!」> 郷土館の出版物 >
『青森県立郷土館研究紀要 第33号(平成21年3月17日発行)』
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kennkyu-kiyou001.html>
青森県庁ホームページ> 観光・文化・教育 > 文化 >

生誕100年記念「津軽に生きた大地の画家 常田健展」

会期 4月16日(金)から5月16日(日)

主催 常田健生誕100年委員会・常田健士蔵のアトリエ美術館・東奥日報社・RAB青森放送

平成22年(2010)、常田健生誕100年を迎えるのを機会に、常田健の作品を一堂に集めた回顧展を開催しました。



浪岡町(現青森市浪岡)に生まれた常田健(1910生～1999没)は、郷土を創作活動の拠点として、大地を相手に働く農民の姿を中心に、大

胆な構図、単純化された線、明快な色彩で、時には力強く、時にはあたたかく描きました。独自の表現は近年急激に評価が高まり、本県を代表する油彩画家の一人に数えられています。

同じ浪岡出身の洋画家阿部合成とは従兄弟で、昭和9年にふたりで「グレル家」というグループを結成し、油彩画の研究を行いました。戦前は二科会、戦後は日本アンデパンダン展を中心に作品を出品し続け、その旺盛な創作意欲は生涯衰えることはありませんでした。

「サントリー美術館名品展」

会期 前期 5月21日(金)～6月10日(木) 後期 6月12日(土)～7月4日(日)

【共催】 青森テレビ 青森県立郷土館

サントリー美術館は1961年に開館し、以て50年にわたり、基し理念である「生活の中の美」を一環して追求し日し古の美術・工芸の収集に力を注いできました。

現在では絵画、陶磁、漆工、ガラス、染織など 総数30000件を収蔵する美術館となり、「美を結び。美をひらく」のミュージアムメッセージを掲げ美術館を開催しており、当郷土館



では、収蔵VIの中から重〇文化財2件、重〇美術VI1件を含む100件あまりを5つのテーマに分けて展示しました。

- 1 愛でる～四季の花鳥と自然のモチーフ
- 2 装う～衣裳と髪飾り
- 3 たしなむ～古典文学と文芸調度のモチーフ
- 4 出会う～名所絵・風俗画と異国のモチーフ
- 5 きらめく～切子ガラス

企画展「對馬隆 野鳥の森」

会期：平成22年7月14日(水)～7月27日(火)

對馬隆氏(昭和10年～平成21年)は、長年青森県内の公立小学校で子供達の教育にとり組まれ、「鳥の先生」として慕われていました。各地の学校での自然観察会などにも積極的にとり組まれ、自然の美しさ大切さを説かれていました。また退職後は、鱒ヶ沢町自然観察館ハロー白神館長として白神山地の環境保全活動に尽力されました。

また、当館開館当初から自然資料収集員として鳥類の資料(スライド)を毎年寄贈いただいております。その枚数は約2万点にも及び、貴重は鳥類の

資料となっています。

青森県は、豊かな自然環境に恵まれ、海岸沿いには海鳥を、山地では森林性の鳥類を見ることができます。

今回の展示会では、對馬隆氏が長年にわたって撮影した国内に生息する野鳥の写真120点、撮影用具等30点の合計150点を展示しました。野鳥の魅力ある姿やかたち、生育環境などの多様性について考えることを主題にしています。

